

### 高所ロープ作業

# 2本でも作業性確保

## 東興ジオテック 藤井電工 ほぼ平行状態保つ

東興ジオテック(東京)高所作業時に2本目のロープ設置が義務付けられるを受け、従来のメー



従来と変わらない作業環境を実現する東興式ライフメッセンジャー

は、のり面保護工などの

ンロープ1本と同様の作業環境を実現する安全ロープを、安全帯メーカーの藤井電工(兵庫県加東市、藤井信孝社長)と共同開発した。長さは1.5びと3びの2種類。3びタイプはモルタル吹き付け時に対応する。藤井電工が近く販売を始める。

ら高所作業を行う時は、体を支えるメインロープ以外のロープをライフレインとして安全帯に取り付けることが義務付けられる。

2本のロープを取り付けている現場では、安全ブロックをつり下げ、安全帯の胸ベルトにロープを取り付ける「リトラクタ式」が多く使われているが、目の前に2本のロープがあるため作業性が低下。吹き付け時にモル

タルなどが付着することもあり、コストや維持管理面が課題となっていた。

そこで同社は1年程前から新たな仕組みや取り付け方法を検討。今秋までに実用化にめどを付け、「東興式ライフレインメッセンジャー」として販売することを決めた。

ライフレインメッセンジャーは安全ブロックと組み合わせ使用。釣りざおのようにメインロープとライフレインが交錯しないように取り付けることでほぼ平行の状態を保ち、従来と変わらない作業環境を実現する。安全ブロックのワイヤにモルタルが付着する心配も

ないという。

11月30日に和歌山県広川町の「国道42号河瀬地区防災対策工事」(国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所が発注)の現場で公開発表会を開いた。地元建設会社などから約20人が参加。

東興ジオテックの川瀬社長は「実際に作業する方が使いにくければ浸透するまでに時間がかかる。作業性を損なわないことを第一に考えており、実物を見て、確認してほしい」と話した。